

1 本市の優位性

○北東アジア主要都市から近い

○交通アクセスの良さ

- ・新幹線
- ・空港（北九州空港、福岡空港など）
- ・高速道路ネットワーク

2 開発の具体的内容 ※1米ドル=110円で計算
(候補地：全ての事業者が小倉駅新幹線口を推奨)

(1) 全体事業費

- ・約4,400億円～約2兆1,550億円

(2) 敷地面積、延床面積

- ・敷地面積（約17.4ha～1,482.3ha）
- ・延床面積（約900,000㎡～4,467,618㎡）

(3) MICE施設

- ・約66,250㎡～1,067,500㎡
- ・最大会議室（2,000人～7,800人超）
- ・イベント数（毎日1件～年2万件）
- ・年間集客数（100万人～500万人超）

(4) 集客の目玉施設

- ・屋内型テーマパーク、ウォーターパーク、アジアの光タワー（200M）、映画スタジオや遊園地、美術館、音楽ホール、スポーツスタジアム など

(5) 送客施設

- ・観光センター（九州及び本州西部（中国地方）への送客）設置、I R施設と日本国内の観光名所を一体化したプロモーション活動 など

(6) ホテル

- ・部屋数（2,500室～12,000室）
- ・年間宿泊客（約130万人～約2,500万人）
※外国（31～47%）、国内（69～53%）
- ・稼働率（80%程度～90%）
- ・宿泊単価（約18,700円～約33,000円）

3 事業収支と経済効果 ※1米ドル=110円で計算

(1) 来場者数

- ・約1,340万人～約2,540万人超

<うちゲーミング>

約500万人～約1,050万人超

※全体の3～4割程度

※約7割が国内客との回答もあり

(2) 売上見込額

- ・約3,280億円～約6,860億円超

<うちゲーミング>

約2,376億円～約4,190億円超

※全体の6～8割程度

※約7割が国内客との回答もあり

(3) 納付金や入場料、税収入の見込み

- ・納付金（385億円～650億円超）
- ・入場料（135億円～220億円超）
- ・税収入（不明）

(4) 事業収支

- ・EBITDA 約3,060億円/年
(本業のキャッシュフローベースでの利益)
- ・EBITDAマージン（EBITDA / 売上高）30.8%

(5) 雇用創出人数（直接雇用）

- ・建設時（20,000人/年）
- ・運営時（6,000人/年～約42,000人/年）

4 スケジュール

A社：2020年6月までに運営/開発パートナー事業者の選定

B社：2020年6月までに、建設設計、図面作成、鉄道・高速道路・空港拡張などの詳細な計画、資金調達及び資本投資の実施などを完了
2021年7月までに用地買収を完了

C社：期間内に準備する自信あり

5 地元企業への影響

- (1) 地元発注率（60%～90%以上など）
- (2) 地元企業の出資等
※資本金の50%までを地元企業の出資分として留保するとの回答もあり

6 事業継続等のリスク

- 統合型リゾート自体が様々な事業で構成されており、リスク回避が可能
- 不測の事態をカバーするための準備金（基金）を用意することは可能

7 インフラ整備とその負担の考え方

- A社：I R施設に必要なインフラ 事業者
I R施設以外（新規、拡張等） 市
- B社：インフラ整備は、自治体とともに応分の責任を負うべき（事業者負担）。収益で十分吸収が可能
- C社：プロジェクト用地内のインフラ整備に発生する費用 事業者

8 懸念事項とその最小化に向けた取組

- (1) ギャンブル依存症対策
 - ・カジノ入場排除（自己、家族等）、顔認証システムの導入、24時間年中無休の相談、基金設置、従業員研修、専門部署設置（法律以上に厳しい方法で制限措置を実施予定との回答もあり）
- (2) 青少年健全育成
 - ・市で実施するプログラムに参加、市民等への啓蒙活動
- (3) 反社会的勢力の排除
 - ・マネーロンダリングに関する犯罪行為に係る強力な内部統制等を実施、A I等の最新技術を活用